

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人

〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十七年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

安心立命

よく安心立命という言葉があるが、これは精神的の面に限るように世人は思っているようだが、この考え方は大きな間違いであって、真の安心立命とは物質も伴わなくてはならないのはもちろんである。考えてもみるがいい、病氣、貧乏、争いの三つの災厄の内の、たとえば一つでもあるとしたら、どこに安心があるであろうかという事である。俺は一生涯病氣の心配はない、貧乏になりつこはない、争いを起こすようなこともないという自信がもててこそ、真の安心立命は得らるのである。ところがそのような三拍子揃うなど、今の世の中では到底夢でしかあるまい。そんな人はおそらく世界中ただの一人もないといってよからう。まず世間をみればよく分かる如く、何事も思うようにならない、嫌なことは次々降ってくる、よいことなどはめつたにこない、全くこの世の中は地獄そのままだ。第一健康にしてもそうだ。いつ何時病氣に罹るか分からない、ちよつとした風邪を引いても、簡単に治ることもあれば治らないこ

ともあるし、こじらしたり大病の前兆になることさえあるのだから、風邪ぐらいなどといって安心してはおられない。また医学でいっているとおり黴菌はそこから中ウヨウヨしているから、いつ何時伝染病や結核菌が飛びこむ分からない。それがため当局でも医学衛生をやかましくない、清潔にせよ、暴飲暴食をするな、外出から帰ったら嗽をしる、食事の前は手を洗え、食物に注意せよなど、何だかんだとうるさい程注意を与えている。それからことごとくを信ずるとしたら、現代社会生活は全く恐怖の渦の中にいるようなものである。

もちろん貧乏も争いも、そのほとんどは金銭問題が主となっており、その原因がまた病氣であるから、どうしても無病息災、真の健康人にならないければ、絶対安心は出来ないのはいうまでもない。しかし、世人はそんなことは到底出来ない相談でしかないと思うであろうが、それが立派に出来るとしたら、大変な福音であろう。ところが必ず出来るのだから大したものである。そのために現れたのが我が教であり、本教をおいては世の中に決してないことを断言するのである。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 入会して六十四年多くの奇跡を体験...
- 暗かった人生から明るく前向きな人生へ...
- 結婚八年目に出産喜びで涙あふれる...
- 絶望から希望へ私は生き残れる...

ネパール

ゼンソク

体調良くなり薬も手放せた...

ネパールキルティプール支部

シッデイバハドウル・マハルジャン(70)



私は四十六歳の時から息苦しい症状が始めました。こんな症状は今までに経験したことがなかったので、すぐに病院へ行きました。すると医師から、「ゼンソクですの、この薬を飲むように」と言われ、それからは症状が出る度に薬を飲むようになりました。薬を飲むとその時は落ち着くのですが、ゼンソクの症状そのものは改善されませんでした。結局、ゼンソクの症状が出てから三年間、ずっと薬を飲んでる生活が続きました。

症状が出てから四年目の五十歳の時、私の状態を見ていた息子(ギリスマ・キラン・マハルジャン)が「新健康協会に浄霊というのがあって、多くの人が元気になっていよ...」と教えてくれました。息子は以前に友人から新健康協会のことを聞いていて、浄霊のことを知っていました。私は、ゼンソクが治まるのであれば是非試してみたいと思い、早速、キルティプール支部に行きました。

支部で初めて浄霊を受け、この方法で良くなるのかな...と思いました。日に日に体調が良くなっていくことに気が付きました。以前のようにゼンソクの症状は出るのですが、症状が出て薬を飲まなくてよくなりました。すると今度は、ゼンソクの出る頻度が減っていききました。これは確実に変化している...と、私は嬉しくなり、それから浄霊を続けることにしました。以前は冬の間は酷いゼンソクの症状が出ていたのですが、浄霊を受け始めた年の冬は全く酷い状態にはなりません。とても驚きました。いつも状態が酷かったので、ずっと気にしていたのですが、楽な状態で済みました。私は、明主様の御力によって楽にして頂けた...と心から感謝申し上げます。

浄霊によつて元気になった私は、多くの方にも浄霊をした...と思います。二〇〇六年四月二十九日、五十二歳で入会しました。今ではゼンソクの症状も体調も良くなりました。本当に奇跡としか言いようがないです。これからも多くの人に浄霊や新健康協会のことを伝えていきたいと思っています。(キルティプール・ネパール)

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

全身の痛み

入会して六十四年
多くの奇跡を体験…

長崎支部
溝上シヅエ (96)



私は小さい頃から気管が悪く、タンスの引き出しにはいつも薬が常備してある程でした。そんな私が浄霊に出会ったのは、娘（長女）がきっかけでした。

昭和三十六年、当時四歳だった娘は、誤って十円玉を飲み込んでしまいました。すぐに病院へ行き検査をする

てくれました。私はこれで何か変化があれば…と思い浄霊を受けていると、娘のお腹でキュツと音がしました。すぐに便を確かめてみると、そこに十円玉が出ていたのです。私はその不思議さにびびくりすると同時に、無事十円玉が出てきてホッとしました。

このことがあって以来、私も娘も少し体調が悪い時には会員さん宅で浄霊を受けるようになり、その度に状態が良くなりました。長崎支部も紹介していただきましたので、支部にも通うようになりました。そして浄霊を続けていきたいと思います。私は昭和三十六年十一月二十三日に入会しました。

その後、子どもたちや夫も浄霊で救われ皆会員となり、現在まで薬を服用することもなく、幸せな日々を過ごしています。

感謝の言葉でいっぱい…

平成元年十一月二日、私が六十一歳の時、私は外出先で急に気分が悪くなりましたので、帰宅して横になっていました。すると急激な全身の痛みが出てきて、特に背中から胸に向かって突き刺すような激しい痛みが絶え間なく続きました。この時、自分でも浄霊をしていました。娘が仕事から帰って来たので娘からも浄霊を受けました。すると、ひどかった激痛が少し薄らいでいきました。本当に不思議でした。

十一月六日、奇跡と思える程に体を動かせるようになりました。この日から支部にも行けるようになり、支部でも浄霊を受けました。

始め、それに合わせて次第に元気になりました。一時はどうなることか…と思うほどでしたが、本当に感謝の言葉でいっぱいです。



これは平成二十六年、私が八十六歳の時のことです。家の玄関の階段でつまずき、その勢いで右側に体が倒れ、背中、右腰を強打しました。激痛で身動きが取れず、自分の身に何が起こったのかも分かりませんでした。ただひたすら「明主様、お願いいたします」とお念じし続けていたことだけは覚えています。周りには誰もいない状況で、何とか長崎支部に電話をしたのですが、電話の状況から支部の方が出張浄霊に来てくれました。痛みで意識は朦朧としていましたが、浄霊を受けていると、痛みが和らぐのをはつきりと感じていました。本当に有難いことです。

高齢者の転倒なので、子どもたちも「骨折していたら手術は免れないだろう」と思っていたようですが、翌日整形外科で診てもらおうと、「胸椎圧迫骨折なので、骨折の保存療法になります」と言われました。つまり安静にしてリハビリの運動をするのみとの診断結果でした。手術を必要とするような骨折でなかったことは奇跡的なことでした。転倒と同時に「明主様！」と一心に御念じしたことで、明主様にお守り頂いたおかげで思いません。

(長崎県大村市)

自律神経失調症

暗かった人生から
明るく前向きな人生へ…

西八幡支部
鎌田かおり (65)



私は二十代の頃から気持ちが塞ぎ込むようになり、「自律神経失調症」で苦しんできました。

悩み事が多くなり、精神的に気持ちも落ち着かなかつたので、睡眠導入剤や精神安定剤など、多くの薬に頼らなければならぬ生活が長く続いていました。

そして、自分自身の頭ではないような感覚が常になりました。気分的に少し楽な時がありましたが、他の人に覚えられたくない一心で、普通の人のように振舞おうとして、逆に精神的な負担になっていたこともありました。

また、仕事に就いた時も、職場で周囲の人の何気ない言葉が気になり、夜も眠れなくなったり、食欲まで無くなるようなことも度々ありました。で、仕事を長く続けることが出来ませんでした。

このような苦しい日々を繰り返し過ごしていた時、姉から「新健康協会

浄霊を頂いてみては…」と勧められました。私が五十五歳の時、平成二十六年でした。この出来事が私の人生を大きく変えるなどとは思っていませんでした。

支部に通い、浄霊を受けるたびに、気持ちが落ち着いていくのを体で感じるようになってきました。そして、嬉しいことに、「私の人生に希望を持つ…」ということが少しずつ出来るようになり、平成二十七年十一月二十五日、五十六歳の時に入会しました。入会を機に、それまでボンヤリしていた頭の中が、少しずつハッキリするようになり、私は浄霊で元気になるのではないかと…と思えるようになりました。そして、平成二十九年には新しい仕事に就くことも出来、今も続けられています。

かつては多くの薬に頼っていましたが、今では全く使わずに生活が出来るまでになりました。このような奇跡を頂きまして、明主様に何と感謝申し上げます。どうか言葉もありません。

時折、体調が思わしくなく、眠れなかつたり、職場での人間関係がうまく行かない時もありますが、そういった経験を通じて自分が更に成長出来ていると感じています。そのため、悩むことも無くなり、体も軽くして頂き、前向きに明るく過ごすことが出来ています。

明主様に御縁を頂いたことで、私自身の体が元気になっただけではなく、身の回りの出来事まで次々と良い方向に向かうようになり、とても感謝しています。

これからは、一人でも多くの人に、私の体験をお伝えしていきたいと思えます。

明主様、私を救って頂き、本当に有難うございました。

(福岡県北九州市)

ネパール

念願の出産

結婚八年目に出産 喜びで涙あふれる…

シャングジャ出張所
デオ・マヤ・グルング (37)



私は二〇〇四年、十六歳の時に結婚をしました。結婚当初から子どもが欲しいと思っていたのですが、なかなか子どもを授かることが出来ませんでした。年が明ける度に「今年はずっと授かりますように」と願い、病院にも行き色々治療を試したのですが、効果はなく、途方に暮れていました。せめて一人でも…という思いで時間だけが過ぎ、結婚して七年間、子どもが出来たことはありませんでした。

も良くなっていききました。それに合わせて精神的にも落ち着いていききましたので、このまま浄霊を続けようと思いい、それから出張所に通うようになりしました。

「おめでどう！妊娠しています」

私は耳を疑いました。あれだけ色んな治療を試しても効果がなかったのに、子どもが出来るなんて、全く信じられませんでした。私は驚いて「本当ですか!？」と聞くと、「本当です」と言われ、心の底から嬉しくなりました。この時の嬉しさは忘れることは出来ません。

結婚して八年目…私と夫は念願だった我が子を妊娠することが出来ました。浄霊を受けていなかったら、こんな奇跡はなかった…心からそう思いました。すぐに出張所へ行き、「明主様、ありがとうございます」と厚く感謝御礼を申し上げ、夫と共に喜びました。

そして、二〇一三年七月二十一日、私は我が子の大きな産声を聴くことが出来ました。「元氣な女の子ですよ…」と言われ、娘を抱いた時、涙があふれて止まりませんでした。我が子を抱けるといことが、こんなにも幸せなことだと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当に嬉しかったです。

するとそれから五年後の二〇一八年、さらに嬉しいことがありました。なんと二人目を妊娠することが出来たのです！この時も驚きと感動で、本当に嬉しかったです。

ネパール

黄疸・肝臓の悪化

絶望から希望へ 私は生き残れる…

ゴンゴブ出張所
ミナ・グルン (50)



二〇一八年七月十四日、私は三十歳で元氣な男の子を授かりました。本当に奇跡としか言いようがありません。子どもたちは大きな病気をすることもなく元氣に育ち、今、娘は中学生で、息子は小学生です。明主様のおかげで頂けた二人の大事な子どもを、しっかりと育てていきたいと思っています。明主様、誠にありがとうございます。

(ネパール・シャングジャ)

も止まってしまったので、チトワンの医科大学病院に行きましたら、すぐに入院することになりました。

二カ月間入院して治療をしましたが一向に治らず、体調は良くなるどころか悪化してしまいました。顔や体が黒くなり、病気になる前の体重は四十六キロありましたが、その体重も三十キロまで落ちてしまいました。

その後も色々治療を続けたのですが、何をしても良くなり、私はどうなってしまうのだろうか…と暗い毎日を送っていました。

何をしても良くなり、動くことも辛くなってしまった私を家族の者が心配して、二〇〇二年、私が二十八歳の時、カトマンズの中心部にあるネパールで最も古い公立総合病院であるビル病院（一八八九年設立）に連れて行きました。

ビル病院で検査をした時、お医者さんは「黄疸が酷く、肝臓も良くないの状態で、もう治療法はない…」と言って、「この状態だと、余命は6カ月でしょう」と宣告されました。その時、私は絶望と共に悲しさで涙を抑えることが出来ませんでした。「私は死んでしまうのか…、もう生きられないのか…」と暗闇の世界に閉じ込められた思いでした。

希望を失ってしまったその時、新健康協会の会員で、カトマンズに住んでいる私の叔母が浄霊を勧めてくれました。私の家はチトワンなので、カトマンズの叔母の家に泊まって、カトマンズ支部で浄霊を受け始めました。

一日に二回浄霊を受けました。毎日二回浄霊を受けて一週間ぐらい経った時に嘔吐が治まりました。そして、体が少しずつ楽になって行ったのです。私の体に何が起こったのでしょうか…。今まで三年間、何をしても感じなかった希望を、微かに感じる事が出来ました。

「もしかしたら私は生き残れるかもしれない…」という思いが込み上げてきたのを今でも忘れることが出来ません。

そして、浄霊を一日に二回受け始めて五カ月後、生理が始まりました。私は信じられませんでした。まったく夢のような瞬間でした。何という素晴らしい御力だろうか…と思いました。

それから、少しずつ元氣になって行く自分が嬉しくて、浄霊を毎日受けていると、七カ月で黄疸症状が良くなったのです。ご飯が美味しくなりました。涙を流しながら食べました。こんなに美味しく食べられるようになったのが本当に現実なのか？夢ではないのか？…と思うほどの驚きでした。

明主様が私を救ってくれました。覚悟していた命を救って頂いた御恩を生涯忘れることは出来ません。私はすぐに会員になりました。

会員になって、カトマンズ支部で浄霊をするようになりました。そして、二〇〇四年、三十一歳の時にゴンゴブ出張所の奉仕者になりました。

明主様のおかげで二〇一二年、三十九歳の時に結婚の御縁を頂きました。命を頂いて二十二年、私は現在五十歳になり、ゴンゴブ出張所で元氣に浄霊活動をしております。

二十八歳の時に「あと六カ月の命」と宣告され、死を覚悟しなければならなかった私を、明主様は救って下さいました。その喜びは言葉に出来ません。明主様、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

(ネパール・ゴンゴブ)

自然農法

自然農法体験談



松山支部
中田伸二 (63)

私は、農薬や肥料を使用せず、土と種の力だけで作物を栽培する農法である「自然農法」は、自然環境にも人体にも優しい究極の農法だと考えています。土と種の力で作物を育てるこの素晴らしい自然農法を、一般の消費者だけでなく、慣行農法や有機農法の生産者の方にも発信していきたいとも考えています。

私はいま、愛媛県松山市と久万高原町で、野菜を中心に自然農法を実行しています。以前は市の団体職員として勤務していましたが、平成十年、私が三十六歳の時に亡くなった義母から家庭菜園を引き継いだことがきっかけで、農業に興味を持つようになりました。しかし、それまで私は自分で野菜を育てた経験はありませんでした。

以前から私は、明主様が発見されて推し進められた自然農法や、ここ愛媛の地で自然農法を実践されていた方にも深く共感していましたので、農薬・肥料を使わずに家庭菜園をすることに決めて畑作を始めました。直接土に触れることにより、農業の楽しさや難しさといったものに触れていき

ました。その数年後、体調を崩して心身ともに思い悩んでいた頃、農業を仕事としてやってみようという思いが強くなり、仕事をやめることにしました。そして平成十三年、三十九歳からは久万高原町の親戚の休耕田を借りて農業を始めました。

最初の一年間は、つるはしで開墾していく作業で、畑らしい状態にまで再生するのが大仕事で

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

した。現在は、自然農法を始めて二十年になり、松山市三十五アール(約千五百坪)、久万高原町九十五アール(約二千八百五十坪)の合計百三十三アール(約三千九百坪)の面積で、野菜を中心に作っています。中でも土作りは試行錯誤の連続で、当初はあちこちから枯れ葉や枯れ草を集めて堆肥を作っては畑に入れていました。そんな時、植物性堆肥さえも使用しない農法に取り組んでいる方の講演会を聴きました。その内容は目から鱗のこのばかりで驚きでした。その中で、「畑の外から堆肥を持ち込まず、畑の中で循環するように土作りをしている」という話を聴き、「これだ!」と思った私は、それからはその方法に切り替えました。今ではなす、小豆、大根、レタス等、様々な野菜は順調に育ち、収量も上がっています。

農業の先輩から「自然農法は肥料・農薬を使用しないため、あまり手間がかからない」というイメージがありますが、決して放任栽培ではありません。お世話は大変です。手間を惜しんではいけません」とお聞きした言葉が今でも心に刻まれています。

近頃、自然農法が世間の注目を集めることになり、私もより大きな張り合いを持つことが出来る嬉しく思います。農業をすることの喜びを多くの人、特に若い人に味わってほしい、これからの農業を担ってほしいと切に願います。

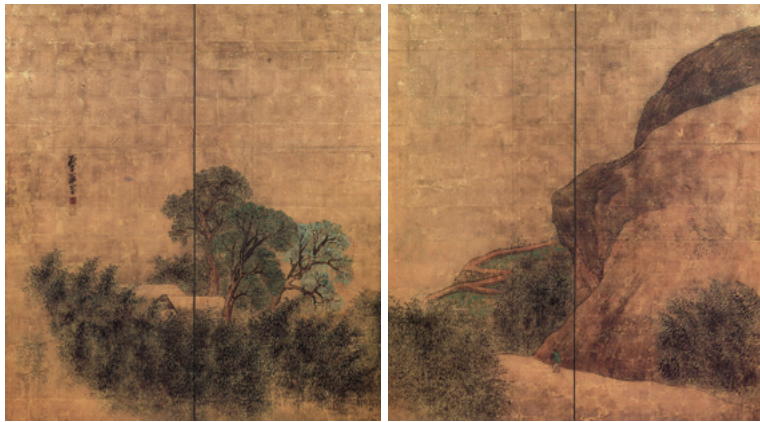


中田さんのナス畑

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

与謝蕪村《青緑山水人物図》



左隻

右隻

「春の海 終日のたりのたりかな」の句で知られる与謝蕪村。二百年以上の時を経て今なお共感をよぶ、大らかな情景を詠んだこの俳人は、さまざまな画派を独学で修得し、池大雅とともに南画の大成者とも評される画人でもありました。一七二六(享保元)年、摂津国(現大阪市)生まれとされていますが、出自に関する詳しいことはよくわかっていません。二十歳頃までに江戸へ出て俳諧を学び、北関東、東北へも遊歴。その間に剃髪して僧侶になっています。三十六歳で京都に上り、丹後にも暮らしました。そうやって尊敬する松尾芭蕉の足跡をたどり、寺院のネットワークを尋ねながら、俳人として、画家としての修行を積んでいったようです。

南画とは、中国の南宗画の影響を受けて江戸時代の日本で生まれた画風の事。職業的、技巧

的で硬質な筆法の北宗画に対し、南宗画は教養のある素人による柔らかな筆法の画風をもつものです。日本の美術はこれまでも、鎌倉時代の水墨画など、中国大陸からの影響を幾度となく受け止め、独自の解釈で消化して進展させてきましたが、南画は、いわば唐絵/漢画の第三の波といえるものでした。南画家たちは中国の、しかも絵に描かれた山岳風景を通して、理想郷に遊ぶ文人の生活に憧れたわけですが、その遠く離れた距離ゆえに、より精神的な部分に焦点をあてる事ができたのかもしれない。

本作は、左隻には豊かに生い茂る木々の合間に民家の屋根を覗かせており、右隻には巨大な岩肌が露わになった山と、その山中を歩む一人の百姓が描かれています。木々と岩、隠された人里と露出した岩肌、巨大な山と小さな人物、といったように、それぞれ対照的な要素がお互いを引き立てあっているように見える作品です。また、おそらく金銀が用いられた豪華な屏風だと考えられますが、棚田のようにも見受けられる山中の描写はどことなく懐かしさを感じさせます。漢詩も学びつつ、「俳諧」という日本的な形式の詩歌を極めた蕪村は、やはり絵の世界でも日本的な情緒というもの表現しえた画人だったのでしよう。句を絵のように詠む、と評される所以、その柔らかな感性がこうしたところからもわかるような気がします。

清明会館

「山の景」展

期間：令和6年10月1日(火)〜令和7年5月13日(火)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535

解説 松田愛子

健康新聞についてのお問い合わせは (092)661-1531まで